平成29年度　学校評価結果（学校関係者評価）

		自己評価 上段：教職員 下段：保護者		4:適切である　3:どちらかというと適切である 2:どちらかというと適切でない　1:適切でない	学校関係者評価 学校評議員５名	
分野・領域	重点的な取組内容　（上段） 評価指標・評価基準（中段）数値目標 具体的取組の状況　（下段）	達成状況	取組の適切さ	改善の方策	自己評価の適切さ	改善方策の適切さ
教育目標・重点目標・組織・運営・管理	学校教育目標の具現化 学校教育目標の具現化が達成されたか 教育改革に向けたＦＰ会議が月１回以上実施する ○重点目標に基づく学校評価を実施した。 ○ＦＰ会議において目指す学校像、目指す生徒像を明確化し、育てるべき資質・能力を明らかにした。 ○職員会議や朝の打合せにおいて教職員の不祥事が起きないよう指導を徹底した。	Ｂ ３．２ ３．５	Ａ ３．５ ３．７	◎年度当初の学校経営方針を、定例の職員会議の表紙に提示したり、ＨＰに定期的に発信するなど、生徒や保護者、教職員に明確に示す。 ◎教職員の不祥事について、外部講師を招いて研修会を開催するなど未然防止を徹底する。	Ａ ３．８	Ａ ３．８
	ご意見等：					
【総務部】 連絡調整外郭団体・ＨＰ・見学会・校内研修	円滑な校務運営と外郭団体との連携 ＨＰの年間更新回数が202回（授業日数） ○分掌および学年間の連絡調整に努めた。 ○支援５団体との適切な連携に努めた。 ○ＨＰの更新により正確な情報を発信した。 ○学校課題に沿った校内研修会を開催した。	Ｂ ３．３ －	Ｂ ３．５ －	◎定例の職員会議において学校課題に係る研修会を適宜実施する。 ◎ＨＰの更新回数を増やすとともに、内容を充実させ外部へ正確な情報を発信する。	Ａ ４．０	Ａ ４．０
	ご意見等：					
【教務部】 教育課程・学習指導	授業改善と学習時間の確保 生徒の平日の「授業以外の学習時間」 １年3.0時間　２年3.5時間　３年4.0時間 ○学校教育目標の実現に向けた教育課程が編成されていた。 ○シラバスや年間指導計画が適切に作成された。 ○教材を工夫し、基礎学力の定着が図られた。 ○思考力・判断力・表現力の育成を図るため「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に努めた。 ○学習意欲の向上を図るため学習評価の工夫・改善が見られた。	Ｂ ３．２ ３．４	Ａ ３．４ ３．７	◎新学習指導要領に基づき本校の教育課程編成に着手する。 ◎基礎・基本を徹底するとともに思考力・判断力・表現力を育むため「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善を推進する。 ◎ＳＣＲＵＭ（ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ研修会）を活用したり、外部講師による授業研究会に参加したりし、教職員の資質・能力を高める	Ａ ４．０	Ａ ４．０
	ご意見等 ○生徒が主体的・能動的に学習をしている様子が、前回授業を参観させていただき、以前とはちがった感想を抱きました。 ○授業以外の学習時間が３年前とくらべ１時間程度増えています（特に低学年）。感心しました。 ○教職員の意見にある通り、生徒が主体的・対話的で深い学びを実践するための更なる工夫が望まれます。					
【生徒指導部】 基本的生活習慣の確立 特別活動の充実	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上 自転車事故が連続50日以上０件 ○基本的な生活習慣を定着させた。 ○いじめの未然防止や早期発見のための指導体制が構築できた。 ○特別活動において自己実現が図られるよう工夫した。	Ｂ ３．２ ３．４	Ａ ３．５ ３．７	◎いじめ防止委員会の回数を１～２回増やし、生徒情報を共有するとともに、いじめの未然防止を徹底する。 ◎交通安全指導やＳＮＳの指導を推進し、基本的な生活習慣を確立させる。	Ａ ４．０	Ａ ４．０
	ご意見 ○自転車事故０件が50日以上も続いているのは、交通安全指導の効果であると思います。 ○潜在的ないじめが無いかどうか、保護者との連携を密にして防止策の点検を継続していただきたい。					

【進路指導部】 **進路啓発活動の実現**	進路情報の提供と進路実現の支援 進路通信の発行回数　各学年年間 11 号 講習の出席状況　各学年９割 ○進路実現のための具体的対策が適切に行われた。 ○進路情報を生徒や保護者に適切に提供した。 ○大学や企業と連携した進路啓発活動を計画的に推進した。	B **３．４** ３．６	A **３．６** ３．８	◎進学講習や論文指導・面接指導などに関して、より効果的な方策を検証し実現する。 ◎高大接続改革に係る研修会を定期的に開催し、教職員の意識改革を図る。 ◎的確な進路情報を提供するとともに、大学や企業との連携を強化し、生徒の進路啓発活動をサポートする。	A ４．０	A ４．０
	ご意見等：					
【保健部】 **教育相談活動の充実** **安全教育の推進**	健康・安全指導体制の確立と防災教育の推進 救急救命講習　受講生30名 ○教育相談体制を充実した。 ○生徒の健康管理や美化意識に係る啓発に努めた。 ○避難訓練等防災指導を適切に行い、防災意識を向上させた。	B **３．３** ３．６	A **３．５** ３．７	◎スクールカウンセラーと養護教諭・ＨＲ担任の連携を強化するとともに、不登校対策委員会を適宜開催し、不登校の早期解決を図る。 ◎生徒の健康管理や美化意識・防災意識の向上を図るため、避難訓練や講演会などをより一層充実させる。	A ３．８	A ４．０
	ご意見等：					
【推進部】 **図書活動の充実・SSH 事業の継承・グローバル意識の高揚**	西高プログレスおよび西高グローバル・エデュケーションの推進 図書年間貸出冊数　2000冊以上 国際交流参加数　40人 ○読書に係る環境整備に努め、読書を促進する啓蒙活動に努めた。 ○ＳＳＨを総括し、「西高プログレス」のエッセンスが反映された。 ○グローバル意識が高まり、国際交流の推進に努めた。	B **３．２** ３．６	A **３．６** ３．６	◎図書環境の整備に努め、言語活動の充実を図る。 ◎西高プログレスの発展に向け、事業の精選を実施する。 ◎アイルランド研修やシンガポール研修の推進に努めるとともに、留学や海外大学への進学を積極的に支援する。	A ４．０	A ４．０
	ご意見：					

※学校関係者評価の表記について

評価段階	平　均	達　成　状　況	取　組　の　適　切　さ
A	４．０～３．６	目標を達成している	取組が適切に実施されている
B	３．５～３．１	ほぼ目標を達成しているが改善の余地がある	取組は概ね適切に実施されているが改善の余地がある
C	３．０～２．６	目標達成状況がやや不十分であり改善すべきである	取組にやや適切でない部分があり改善すべきである
D	２．５～１．０	目標達成状況が不十分であり大いに改善すべきである	取組が適切でなく大いに改善すべきである